

## 令和7年度小松市立日末小学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解の会で、気になる児童の情報を共有し、対応について考えることができた。</li> <li>・月1回の「生活アンケート」では、複数回のアンケートにより、高学年では変化を把握することができた。アンケートの回答状況から児童のトラブルに早期に対応することができた。低学年は2か月に1回の実施にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート頻度を増やしたことで、児童の状況や変化を把握しやすくなり、困りごとやトラブルに早期に対応することができた。また、児童理解の会で気になる児童について共有し、対応について共通理解を図ることができた。</li> <li>・アンケートをデジタル化したので、結果を全職員ですぐに共有できるようにしていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1か月に1回以上児童理解の会を開き、全職員で児童の様子についての情報交換を行い共通理解を図る。</li> <li>・児童の実態把握のため「生活アンケート」を作成し、月1回実施する。</li> <li>・生活アンケートの実施に合わせて、学級担任が児童の面談を行う。</li> </ul>		
特別活動	学級目標を軸にしたよりよい学級・学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会では、各学年のめあてを考えていたが、スローガンと学級目標と目指すものが多くあり、学級目標とのつながりの意識が薄かった。2学期以降の行事では、行事のスローガンを達成するために、学級目標をもとに、具体的なめあてを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級目標と合わせて考えることで、行事のめあてを決めることができていた。「学級目標を意識して活動しましたか」の項目では、95.9%の児童が肯定的な回答をしていた。</li> <li>・学期ごとに学級目標について振り返ることで、児童が成長を実感できていた。</li> <li>・学級目標で目指す姿について、教師が児童の行動を価値づけていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの目指す姿を学級目標として掲げ、目指す姿に近づいているかを毎学期末に各学級で振り返る。</li> <li>・各行事の際にはそのねらいを児童と共有する。その上で、自分たちの学級目標にある姿に近づくための具体的な行動目標やその行事の中でできることを学級で話し合い、実践し、行事の後に検証する。</li> <li>・年間を通してたてわり活動を行い、学年を越えた関わりを通して、学年に応じた児童の役割の自覚を促す。</li> </ul>		
道徳教育	道徳教育の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末に教科書とノートを家庭に持ち帰り、学習の様子について情報共有できた。</li> <li>・校内研修で、本校の重点項目となっている「A-4 個性の伸長」と「C-16 よりよい学校生活、集団生活の充実」について授業構想シートを作成し、発問や問い返しを考えることができた。2学期末に再度研修を行い、授業実践の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で道徳の公開授業を実施し、保護者に授業の様子を公開した。また、2学期末に教科書とノートを家庭に持ち帰り、道徳の学習の様子について情報を共有することができた。</li> <li>・夏に行った校内研修で作成した授業構想について実践の成果と課題を出し合い、重点項目と児童の実態について共有した。</li> <li>・次年度に向けて重点項目の見直しを行い、目指す児童の姿の見直しと道徳教育の向上を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳推進教師による校内研修を行い、授業構想シートを作成する。その上で、児童が物事を多角的・多面的に考え、人間理解や他者理解を深め、さらに、自分の考えを深められるような発問や問い返しを吟味し、授業で実践する。</li> <li>・年に一回以上、道徳の公開授業を実施し、家庭との道徳教育の共有をはかる。</li> </ul>		
特別支援教育	一人一人を大切にされた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の提示、手順を示すなど、UDを意識した授業づくりを全教員で意識している。</li> <li>・児童理解の会や特別支援校内委員会を通して、児童の支援について共通理解を図っている。</li> <li>・学期末の休み時間に取り出し学習を行うことで、学習に支援の必要な児童に個別に指導を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順や絵を提示したり、ICTを活用したりし、UDを意識して授業に取り組んでいる。算数では、進度表で見通しを持たせ、学習を進めることで意欲的に取り組める児童が増えた。</li> <li>・毎月の児童理解の会で児童の様子を共通理解できたが、校内支援委員会での内容も必要に応じて情報を共有していく。支援が必要な児童には専門相談員を派遣し、支援の仕方等を学ぶことができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任や教科担任は、UDを意識した授業づくりや学級づくりを行う。</li> <li>・児童理解の会や特別支援校内委員会を定期的に開催して、専門相談員等の専門機関との連携を図りながら、生活や学習上の困難を少しでも改善できるように取り組む。</li> </ul>		
読書教育	読書の質と量の向上につながる読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の読書量の達成率は、全体で77%となった。ただし、学年によって達成率にかなりの差があり、読書への興味・関心が低い児童も一定数いるため、2学期は学年の目標冊数を設定し、学年で目標達成に向けて図書室利用ができるようにしたい。</li> <li>・読書の質の向上のために「おすすめの本」の取り組み方を工夫していく。</li> <li>・図書委員会児童による企画を推進し、読書への興味・関心を高めていくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の読書量目標冊数の達成率は、88%となった。3年生と5年生は全員が目標冊数を達成できた。他の学年についても本に親しむ児童が増えている。</li> <li>・図書委員会児童の企画で「おすすめの本」を読む機会を設けたことで、「おすすめの本」を読む児童が増えたことで読書の質の向上に繋がった。</li> <li>・「おすすめの本」の取り組みについて、児童がさらに取り組みやすくなるよう次年度に向けてシートの提示方法を見直す。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人が記録ファイルを持ち、年間の目標冊数のめあてをもとに自分で学期ごとの目標冊数を決める。個人の学期ごとの目標冊数の達成率が80%以上となるようにする。</li> <li>・各教科の学習の中で、教科書に掲載されている本や関連図書の並行読書を推進し、読書の質の向上を図る。</li> </ul>		
保健健康教育	よりよい生活習慣を自ら意識できる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアコントロールチャレンジウィーク中は、メディア機器使用時間などのルールを守ろうとする姿が見られた。チャレンジウィーク後の継続に課題がある。</li> <li>・学校保健委員会を通して、親子でメディア使用について話し合う機会をもちたい。</li> <li>・メディアが心身に与える影響については、2学期以降も様々な場面で情報発信していきたい。</li> <li>・運動会練習やプールの授業で、ラダー、「8の字跳び」の実施が難しかった。2学期以降に取り組み、11月に反復横跳びの記録をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会では、親子でメディア使用について話し合う機会をとることができた。例年より多くの保護者が参加し、親子で家庭でのメディア使用のルールを作ることができていた。</li> <li>・依然としてチャレンジウィーク後の継続や一部の家庭でルールが曖昧だったり、メディア時間が一日3時間以上の家庭があったりするなどの課題がある。</li> <li>・ラダーでは、足を素早く動かす動きに楽しそうに取り組む姿が見られた。8の字跳びでは、学級によって取り組みに差が見られた。</li> <li>・5月と11月に測定した反復横跳びの記録を比べると、28人中14人（50%）の記録が伸びた。今後は、月1回、8の字跳びの記録を測定するなど、定期的に取り組めるよう呼び掛け、敏捷性の向上を図っていきたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会のテーマに取り上げ、親子でメディアルールの見直しを図れるようにする。</li> <li>・年3回程度、メディアコントロールチャレンジウィークを設けメディア機器の適切な使い方を知り、身につけられるようにする。</li> <li>・ほけんだよりや掲示、保健指導などを通してメディアが心身に与える影響についての情報を発信する。</li> <li>・敏捷性の向上に向けて、ラダー、スポチャレ種目「8の字跳び」に取り組む。</li> </ul>		
GIGAスクール構想	学習用端末の活用推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議後に実践交流の機会をとり、活用方法について共有することができた。</li> <li>・学習用端末活用スキルについては、串小学校と共通したものにし、定着状況を確認しやすいものに改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や帯タイムを通して、端末を使用することには慣れてきた。</li> <li>・職員の要望に合わせて校内研修のテーマを設定し、学習用端末の活用方法について学ぶ機会を設けることで、先生方の端末活用にスキル向上につながっている。今後は授業での効果的な端末活用が進められるよう、学校研究と関連させて研修の場を設定したい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業、帯タイム等で、学年に応じた学習用端末活用スキルを身に付けさせ、定着状況を確認する。</li> <li>・授業実践交流や校内研修で学習用端末の活用について共有し、先生方のタブレット端末の活用力向上を図る。</li> </ul>		
家庭・地域社会との連携	郷土を愛する心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学びは計画的に行われ、地域の方にはお世話になっている。社会科でもビニルハウス見学などの交流があった。2学期には、これらの学びを地域の方に向けて発信する機会を設けたい。（11月の文化祭の予定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培活動は、地域の方の力を借りて、計画的に行うことができた。地域を大切にされた体験活動を、来年度に繋げるために、引継ぎを確実にやっていく。</li> <li>・11月の「感謝の会」は中止になったが、3学期の「6年生を送る会」で、地域の方への感謝やお礼を伝える場を設け、郷土への愛着を育むことに繋げていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さつまいも・イチゴ・大根・米の栽培を通して、地域の方々との交流を大切に、地域に根付いた体験的な学びを展開する。</li> <li>・地域の農業や人を調べ、発信する学習活動を通して、地域や郷土を大切にすることを育てる。</li> </ul>		

学校関係者評価	<p>○【8月】学校研究やGIGA構想など、具体的な取組について示されているので、2学期は取組を推進して欲しい。子どもに力をつけるために、色々な取組をしているが、教員も子どもと一緒に楽しみながら進めてほしい。時間外勤務の削減に向けて、業務の精選も同時に進めていく必要がある。</p> <p>○【2月】学校職員が同じ方向を向いて、子供たちの力を信じて授業改善等の取り組みを進めていることが伝わった。また、行事ごとの振り返りを全校で共通して行うことなど、学校としての良い伝統は継続してほしい。これからも地域の子供たちが、喜んで学校に来れるように、学校運営を進めてほしい。</p>
---------	---